1. 法人概要

|  |  |
| --- | --- |
| 法人名 | 社会福祉法人身障者ポニーの会 |
| 法人設立年月日 | 平成１４年１０月３１日 |
| 代表者名 | 濱西まり子 |
| 法人所在地 | 茨城県取手市高須２１４８ |
| 電話番号・FAX番号 | TEL0297-83-2266　　FAX0297-82-5880 |
| 従業員数　R4年３月３１日現在 | ８２名（正職員１８名・非常勤職員６４名） |

1. 理念

「すべての人が夢と希望をもって暮らせる社会の実現に貢献する。」

　・ご利用者様が地域の中で仕事や活動を通して生きる喜びを見いだし、社会参加を目指せるような支援を心がけます。

1. 沿革

平成　８年　２月　「ポニーの会」設立　重度身体障害者の「生きがいの場」を求め、会員５名にて活動開始

平成１１年　４月　 国庫補助を受け小規模作業所として運営を開始

平成１４年１０月　「社会福祉法人　身障者ポニーの会」として法人格を取得

　　　　　　　　　 小規模通所授産施設として定員１９名にて運営を開始

平成１８年１０月　「障害福祉サービス事業所ポニーの家」多機能型（自立訓練・就労

　　　　　　　　　 移行支援）の施設として、定員３６名で運営開始

平成１９年　４月　 生活介護事業を開始

平成２１年１０月 　就労継続支援B型事業開始　合計定員５０名の変更

平成２３年　４月　「ケアホーム夢未来」を定員１４名で開所

平成２６年　２月　「相談支援事業所キャンディ」（特定指定相談事業所）を開所

平成２６年　４月　「ポニーの家」を定員６０名に変更

平成２９年　２月　「社会福祉法人　身障者ポニーの会」本館竣工

平成２９年　４月　「ポニーの家」を「ポニーの家多機能」に名称変更　定員５０名に変更　「ポニーの家生活介護」を定員２０名で開所

平成３０年１１月　 障害者の働く場として、取手駅前のリボンとりでビル３階に

「PONY’S CAFÉ」を出店

令和　２年　３月 　自立訓練（生活訓練）のサービスを廃止

令和　４年　３月　 就労移行支援のサービスを廃止

1. 事業内容

　〇第二種社会福祉事業

1. 障害福祉サービス事業

ポニーの家多機能（生活介護・就労移行支援・就労継続支援B型）

ポニーの家生活介護（生活介護）

ケアホーム夢未来（共同生活援助）

1. 相談支援事業

相談支援事業所キャンディ（特定指定相談支援）

1. 法人本部事業報告概要

　令和３年度、当法人は利用者、ご家族、入居者はもとより、出入り業者の皆様にも

ご協力をいただき、新型コロナウイルス感染症の発生防止に努めてきた。しかしながら、今年２月、利用者７名と職員５名のコロナ感染により１週間ほど施設の閉鎖を余儀なくされた。新型コロナウイルス感染症の発生から２年以上経過した現在も、収束の目途がたっておらず、感染症に翻弄された１年間であった。

令和2年度は「まん延防止等重点措置」の発令により成人式を行なえなかったが、コロナ感染も若干落ち着いたことから、１月に成人式を開催し、２年分の成人を祝うことができた。また、リスク管理の観点からパソコン内のデーターを浸水などの災害から守るためにデーター保存の方法をサーバー型からナスとクラウドの併用型にした。ナス（ネットワーク上の複数のパソコンで共有することが出来るLAN接続の外付けHDD）とクラウドを併用することで、サーバーを使用していた時よりもコストを抑えることができている。

＜実施状況＞

　（１）職員研修・・・職員としての意識向上・レベルアップのため各種研修・講習会・会議に参加した。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 日時 | 名称 | 参加人数 |
| 4/5 | 社会福祉施設新任職員研修Bコース | 1名 |
| 4/30 | サービス管理責任者研修（更新） | 2名 |
| 5/21 | 強度行動障害 | 1名 |
| 6/1 | 人が集まるチラシの作り方講座 | 1名 |
| 6/16 | チームビルディング研修 | 1名 |
| 6/29 | サービス管理責任者研修（基礎） | 2名 |
| 8/17 | プレゼンテーション能力発揮研修 | 1名 |
| 9/15 | リスクマネジメント研修 | 2名 |
|  | 社会福祉施設中堅職員研修 | 1名 |
| 9/24 | コロナウイルス感染症対策研修 | 1名 |
| 9/30 | 相談支援従事者研修 | 2名 |
| 11/1 | 虐待しないためのｽﾋﾟｰﾁﾌﾞﾛｯｸ防止研修 | 2名 |
| 11/18 | コーチング研修B | 1名 |
|  | アンガーマネージメント研修B | 1名 |
| 12/9 | 労務管理とコンプライアンス研修 | 2名 |
| 12/24 | 社会福祉施設等中堅職員研修C | 1名 |
| 12/28 | 動機づけ面接MI研修 | 1名 |
| 1/27 | 社会福祉法人の人材マネジメントと法改正対応ポイント | 1名 |
| 合計 |  | 24名 |

　※令和3年度はzoomによる研修が多く、現地へ出向いての研修は少なかった。

③各種会議

　Ⅰ.評議委員会・・・開催日　5/29　　　　　　　　　　　　　　　 計1回

　Ⅱ.理事会・・・・・開催日　5/17、5/29、11/16、1/13、3/24　　　計5回

　Ⅲ.給食会議・・・・開催日　毎月第3金曜日　　　　　　　　　　 計12回

　Ⅳ.その他・・・・・ケアホーム会議・支援会議・厨房会議・常勤会議　随時

④実習生受け入れ

　　6/14~18　　伊奈特別支援学校　　　 1名

　　6/21~25　　伊奈特別支援学校　　　 1名

　　6/28～7/2　美浦特別支援学校　　　 1名

　　8/23～27　 通信制高校　　　　　 1名

　 10/4～8　　伊奈特別支援学校　　 　1名

　 10/11～15　伊奈特別支援学校　　　　1名

　 10/18～22　伊奈特別支援学校　　　　1名

⑤見学者　　16組

　特別支援学校卒業後の進路先を決めるために見学された。

⑦施設整備

・24時間テレビから寄贈された車椅子用福祉車両リフト故障のため廃車

・日本財団より寄贈されたキャラバン（10人乗り）26万キロを超え廃車

・中古8人乗りキャラバン・・購入

・公益法人JKAの新型コロナウイルス感染症拡大防止策補助事業によりオゾン脱臭機

5台整備

・取手市のコロナ関連補助金より体表温度測定カメラ1台整備

・エアコン修理　3台

６．事業別事業報告

（１）ポニーの家多機能

　今年度も新型コロナウイルスの影響で運動会などのイベントを開催できなかったが、小貝川ハーモニー財団のご厚意で当施設の敷地内で乗馬体験を行うことができた。大きな馬を見てなかなか触ることもできない利用者もいたが、皆目を輝かせて馬との時間を楽しむことができた。１１月には小グループに分かれて印西のビックホップに遠足に行くことが出来た。グループごとにボウリングや観覧車に乗ったり、買い物やフードコートで食事を楽しんだりすることが出来た。近場の遠足だったが、帰ってきた利用者から「楽しかった！」とたくさんの声を聞く事が出来た。

又ポニーの家HPに利用者専用ページを作り施設の活動の様子が見られるようにしたことで、ご家族からも喜のびの声があがっている。

コロナウイルス陽性者発生時の施設の閉所時には、ご家庭に連絡し体調の確認や気持ちの安定を図った。また利用者ご本人ともお話をさせていただき自宅でのお手伝い等を促し、生活リズムを崩さない様働きかけた。通所を再開してからも感染が心配でご自宅で過ごされる方もいたが、適宜ご自宅に電話をしてご本人の様子を伺い、ポニーの様子をお伝えした。感染対策として食事の場所を分散することに加え、部屋の窓や送迎車内の窓を開け換気に努めた。

|  |  |
| --- | --- |
| ポニーの家多機能（合計50人） | 2021年4月以降 |
| 生活介護 | 34人 |
| 就労移行 | 6人 |
| 就労継続支援B型 | 10人 |

1. 生活介護

活動報告

作業や余暇活動をとおして、生活能力の向上と健康維持を目指し、基本的な生活習慣を身に付け、それぞれの能力や個性を充分に発揮し、社会参加の意識がもてるように支援した。

（内職請負作業部門）

ハンガーのシール剥がし、工事用ベストの検品、シール貼等の作業をおこなってきた。利用者個々の得意分野の作業を提供してきたが、納期等に余裕がある時は、色々な作業に挑戦し能力の向上を図れるようにしてきた。また、週に２回３０分～４０分のウオーキングの時間を設け健康のために歩く習慣が身に付くよう支援した。

（農業部門）

農作業は職員販売用に季節の野菜を作った。種・苗から収穫するまでの工程を覚え、収穫・販売する喜びを感じられるように支援して来た。夏の暑い日の草取りや収穫は大変だったが、熱中症に気を付けて支援を行った。

（手工芸部門）

手工芸の製品は、ステンシルの小物、ミシン刺繍のタオル、さをり織小物、ビーズアクセサリー、フェルト小物、新たな作業として綿花を栽培し収獲した綿を使った小物などを制作した。製品作りは、利用者個々に合わせわかりやすく説明し作る楽しみを持てるように支援した。

又コロナの関係でイベントが中止となり、販売の機会が減ってしまったが、PONY’S　CAFÉや庁舎売店、阿見の農産物直売所「大きなかぶ」等で販売した。

（クッキー製造部門）

一人一人の作業スキル向上を目指し、それぞれに適した声掛け等を考えながら支援した。クッキー（１２種類）やケーキ（５種類）はPONY’S　CAFÉや産地直売所の「JA夢とりで」「大きなかぶ」、取手市役所藤代庁舎売店などで販売した。さらに今年度から「さとふる」（ふるさと納税のサイト）に登録し注文を受けたところ前年度に比べると１０万円程売り上げが伸びた。

（パン製造部門）

食パン、コッペパン、菓子パン２０種類以上の製造を利用者の手作業で製造し、働く喜びと環境を提供することを大切に支援した。パンは施設内や取手市役所藤代庁舎売店で販売し地域の住民に安価でおいしいパンを食べていただけるようした。又金曜日には焼き立てのパンを施設内の給食で提供し喜ばれている。

（売店・きまま部門）

取手市役所藤代庁舎売店、利用者用の「喫茶きまま」で接客をした。接客の態度や言葉遣いを身に付け、自信を持って接客できる様に支援した。

1. 就労移行支援

活動報告

企業に就労することを目標にし、それぞれの能力や個性を充分に発揮できるように支援した。

（クリーン部門）

取手市から高須体育館のトイレ清掃の受託を中心に作業を行った。個々のペースを尊重し、皆で協力し合って作業に取り組めるように支援した。

1. 就労継続支援B型

働く喜びを感じ、社会参加の意識を持てるような支援を目指した。個々の利用者は自分の役割を理解し、協力して作業できるよう多様な作業を提供し支援した。

（菓子製造部門）

カフェで提供するホットサンド用の食パン、トースト用山形パン、コッペパン、ロールケーキ、クッキー（６種類）を製造販売した。利用者個々の能力が発揮できる環境を整え、協力して作業に取り組めるように支援した。

（カフェ部門）

取手駅前リボンとりでビル３階のPONY’S　CAFÉでは、利用者の働く場として交代で利用者が接客に携わった。丁寧な言葉遣いや、笑顔であいさつするなど基本的な接客マナーを身に付けられるよう支援した。常連のお客様との会話も出来る様になり、カフェのスタッフとして自信を持って携わることができた。

（クリーン部門）

外部からの受託を始め週に２回、マンション・アパートの共有部分の清掃を行なった。外での作業は、常に見られていることを意識し、言動に気を付けながら丁寧な作業をした。また、給食後の食器洗浄作業も役割が決まっており、自分の役割をきっちりと果たすことができた。

（２）ポニーの家生活介護

今年度も、コロナ渦の中で行動や活動に制限がある中、感染対策を徹底しながら活動を提供した。公園や外出等も状況を見ながら実施し、動きのある支援を心がけた。しかしながら、令和４年２月に利用者、ご家族、職員内にコロナウイルス陽性者が出たことで、１週間程施設を閉所した。閉所期間中にはご家庭に連絡し、気持ちの安定を図る様働きかけた。また、体調の確認はもちろん、家事手伝い等も促し、自宅でもリズムを崩さず過ごせる様働きかけた。中には通所を再開しても、閉所したことをきっかけに自宅にこもり、部屋から出て来られない利用者もいた。そのため、ご家族と連携をとりながら利用者のペースに合わせて環境を整え、徐々にポニーに戻れるよう働きかけていった。

身体機能の維持・向上の為、理学療法士・作業療法士の機能訓練を実施し個々に合ったリハビリや活動の提供が出来た。また、言語聴覚士には、食事の提供の仕方や食形態の見直しのアドバイスを受けながら実施した。

|  |  |
| --- | --- |
| ポニーの家生活介護 | 2021年4月以降 |
| 生活介護 | 20人 |

活動報告

（箸作業部門）

個々の能力によって役割を決めて作業してきた。今年度は箸入れの仕事より、紙スプーンや紙フォークの袋入れの仕事や紙ピックの箱詰めなどの仕事が多かった。受託業者のアオトプラス（株）さんのご配慮により仕事が途切れることもなかったが、作業が少なかった時にはプランターでゴーヤの栽培をしたところ、みごとなグリーンカーテンになった。

（生活ドルチェ部門）

個々のリハビリ計画に沿って、理学療法士や作業療法士によるリハビリをおこない身体機能の維持向上だけでなく専門的なアドバイスのもとに仕事や生活において、各々の力を引き出すきっかけを作りだした。また、3ヶ月に1度おこなっていた歯科検診はコロナがおちついた時期を見計らって12月に1度行うことが出来た。精神面ではミュージックケアや創作活動、散歩等を通し心のケアも行い、それぞれの利用者が心穏やかに楽しく過ごせる様支援した。

（製本印刷部門）

パソコン作業の中で能力に応じて仕事を配分し、個々のスキルも向上するよう支援に努めた。職員や外注の名刺等を受注し作成した。12月には年賀状印刷の注文を受け納品した。又創作活動等で作成した切り紙やちぎり絵、紙粘土細工などを写真に取り込み2022年のカレンダーを作成し販売した。

（未来工房部門）

利用者それぞれの強みを見出し、色々な課題に挑戦して来た。ボールペン封入作業は生活の一部になっており、集中して取り組むことが出来た。又厨房の荷物運びやポニー内の段ボール・ペットボトルなどを整理するのも仕事として定着している。日常的にウオーキングを取り入れ、心身の安定を図っている。毎日の生活リズムを崩さないよう支援に努め、穏やかで充実した生活が過ごせる様支援して来た。

（３）ケアホーム夢未来

　滝沢医院のご協力のもと、ケアホーム利用者はワクチンの優先接種により、3回目の接種まで実施することができた。

　8月から未来棟に1名の利用者が体験入居を行い、ご本人、ご家族の頑張りにより、11月から本入居となった。半年を経過し他利用者も受け入れる様子が見られ、少しずつケアホームでの生活に慣れ始めている。未来棟でも、食後に身体を動かすことが習慣になっている方もいて、腹筋をするときに足を押さえて協力している姿がみられる。

土曜日や祭日は、近くを散歩したり皆で工作をするなど、ゆったりとした休日の時間を楽しめる様工夫した。夢棟では夕食後のひとときに、音楽をかけて行進したり、ダンスをしたりと楽しんでいる。淋しそうにしている方がいれば笑わせようとして、声をかけて気遣うなどほんわかとした雰囲気が漂っている。

|  |  |
| --- | --- |
| ケアホーム夢未来（合計14人） | 2021年4月以降 |
| 夢 | 7人 |
| 未来 | 7人 |

（４）相談支援事業所キャンディ

ポニーの家の利用者69名その他53名計122名の相談支援を担当した。

グループホーム入居のための支援、就労支援事業所通所開始のための支援、その他現在利用しているサービスが問題なく提供されているかどうかを定期的に確認した。

コロナ禍にあり感染予防のために事業所への訪問を控えなければならなかったり、支援会議を思うように開催できなかったり、通常通りの支援が行なえないことがあったが、訪問や会議の必要を十分に見極めて、必要なことは行なえるように努めた。

以上